

現庁舎が抱える庁舎としての機能の課題

- ・防災上の拠点施設としての耐震性の課題
- ・洪水による庁舎の浸水の危険性
- ・庁舎の分散化、狭隘化
- ・ユニバーサルデザインへの配慮の課題
- ・環境への配慮の課題

新庁舎建設の検討にあたっての基本的な考え方について(H30年度市民懇話会)

目標

誰もが使いやすく、
市民の安心・安全を守り、
市民のシンボルとなる庁舎

整備のポイント3つの視点

- ・庁舎を使い、働く「人」
- ・安心・安全に使える信頼できる「庁舎」
- ・健全な行政運営に向けた「コスト」

第五次宮崎市総合計画

基本構想

～まちづくりの基本的な考え方～
(1) 市域の均衡ある発展と地域の特性を生かした協働のまちづくり
(2) 災害に強いまちづくり
(3) 豊かな地域社会を築く地方創生の実現

～人口ビジョン～
将来推計人口モデルで人口減少を抑制

～将来の都市構造～
居住地、商業地、業務地、公共公益施設等は市中心部や合併4地域の中心部にコンパクトに集約

前期基本計画

行政機能の中核である本庁舎は、老朽化と狭あい化が進んでいることから、安定的な市民サービスの提供を確保するために、市民の交流や防災機能の充実強化をはじめ、今後の社会と環境に求められる機能を考慮するなど、多面的な視点を持ち、建替えを含めて、庁舎のあり方を検討する。

宮崎市都市計画マスタープラン

【中核拠点】 高次商業・業務（市役所本庁舎などの行政機能を含む）など、多様な都市機能を集積する。

宮崎市立地適正化計画

市役所本庁舎は中核拠点に集約する施設

整合

寄与

H30年度市民懇話会で今後検討を深めていくための判断材料とされた項目

整備のポイント

庁舎を使い、働く「人」

- A 市民の使いやすさを重視した庁舎
- B 職員の働きやすさに配慮した庁舎

安心・安全に使える信頼できる「庁舎」

- C 市民の安心・安全を守る防災機能が備わった庁舎
- D 市民が誇ることのできるまちのシンボルとしての庁舎
- E 環境へ配慮した庁舎
- F 市民や観光客が分かりやすい情報を受け取ることのできる庁舎

健全な行政運営に向けた「コスト」

- G より利便性の高い機能導入による収益性の高い庁舎

社会情勢の変化

新たに検討すべき視点

① 人口減少・少子高齢化の進行

人口減少などに伴い、職員数の減少も考えられるが、多様化する業務に人員を割り当て、単純化作業は、AIやロボティクスで行うことなど効率化の実現に向けての視点

② 働き方改革

場所にとらわれない働き方や部局間コミュニケーションを促進するフレックシブル化など、働きやすい環境の実現への視点

③ 都市内分権の推進

本庁だけでなく、出先機関についても、窓口のあり方やデジタル化など、本庁と同様に、今後のあり方を考える必要があり、更なる地域のまちづくりの推進と、必要な行政機能の充実に向けての視点

④ デジタル技術の進展

発展する情報通信技術の活用により、行政手続きの電子化など、更なる行政サービスの向上を図るとともに、事務の効率化につなげていく視点

⑤ 新たな感染症への対応

ウィズ・アフターコロナ社会を見据え、市民生活の新しい日常や働き方の変化に伴う、市民サービスのあり方の見直しなどを踏まえた新庁舎のあり方についての視点

⑥ 環境配慮（カーボンニュートラル）

「ゼロカーボンシティみやざき」の実現と脱炭素社会の実現に向け、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）化への実現に向けての視点

庁舎建設基本構想の先進自治体との比較

項目	宮崎市(案)	長崎市	高知市	越谷市	秋田市	市川市
A 市民の使いやすさを重視した庁舎	○	○	○	○	○	○
B 職員の働きやすさに配慮した庁舎	○	○	○	○		○
C 市民の安心・安全を守る防災機能が備わった庁舎	○	○	○	○	○	○
D 市民が誇ることのできるまちのシンボルとしての庁舎	○	○	○	○		
E 環境へ配慮した庁舎	○	○	○	○	○	○
F 市民や観光客が分かりやすい情報を受け取ることのできる庁舎	○			○		○
G より利便性の高い機能導入による収益性の高い庁舎	○					
H コスト縮減に取り組むとともに、時代の変化に対応できる庁舎		○				
I 地域性を生かし、周辺環境と調和した庁舎				○		○

反映

反映

新庁舎建設の基本理念・基本方針 <新たな本庁舎のあるべき姿>